

### 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号
------	---------

氏 名 杉田 敦子

論 文 題 目

One-year follow-up of serum antimüllerian hormone levels in patients with cystectomy: are different sequential changes due to different mechanisms causing damage to the ovarian reserve?

(卵巣腫瘍摘出後の患者における血清 AMH 値の 1 年間追跡調査  
: 異なるメカニズムにより、卵巣予備能を障害する)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

有馬 寛



名古屋大学教授

委員

中羽 崇男



名古屋大学教授

委員

丸山 彰一



名古屋大学教授

指導教授

志川 史隆



## 論文審査の結果の要旨

内膜症性嚢胞摘出術において、血清 AMH の値がどのように変化するかを術前から 1 年後まで継時的に評価することを目的とした。39 症例で手術前と手術後 1 か月、1 年の AMH の値を評価したところ、中央値は術前 3.56 ng/mL、術後 1 か月 1.90 ng/mL、術後 1 年 2.10 ng/mL であった。1 か月後より 1 年後の値が高かったのは 20 例、低かったのは 19 例であり、高かった群は低かった群に比し摘出卵胞数が多く、有意差を認められた。今回の結果から、卵巣皮質の摘出により術後卵巣予備能は低下するが、持続的な機能低下には血流の低下や手術の炎症など他のメカニズムが影響するのではないかということが示唆された。

本研究に対し以下の点を議論した。

1. AMH は、男性では精巣のセルトリ細胞から分泌され、ミュラー管の退縮を起こすことが知られている。女性においては一次卵胞、前胞状卵胞、小胞状卵胞で産生された AMH は、原始卵胞のリクルートメントと胞状卵胞以降のゴナドトロピン依存性の卵胞発育を抑制するという作用を有し、二重に卵胞の枯渇を防ぐメカニズムを担っている。
2. 月経 3 日目の血清 FSH 値は、最も古典的な卵巣予備能の指標であるが、月経周期で変動することに加え、卵巣機能がある程度低下しないと上昇しないという問題がある。他には顆粒膜細胞から産生されるインヒビン B の血清濃度や、血清エストラジオール値もあるが、これらも月経周期によって変動がみられる。また、超音波による胞状卵胞数計測は、月経 3-5 日目に計測しないといけないことや、検者によってばらつきがでるといった難点がある。外因性に薬剤を投与し、マーカーの変化をみるダイナミックテストもあるが、薬剤を投与し、その反応をみるものであり、検査は煩雑である。その点 AMH は、月経周期に左右されることなく、1 回の採血で評価できることより、汎用性が高いと考えられる。
3. Table2 に示す通り、術後 1 か月の AMH 値の中央値は Decrease 群で 3.66 ng/mL、Increase 群では 1.07 ng/mL であり、Increase 群の方が有意に低かった。Increase 群では摘出卵胞が多く、術後 1 か月での低下率が高かったが、その後残存した原始卵胞が成長し、産生が回復すると考えられる。一方 Decrease 群では、摘出卵胞が少なく、術後一か月での低下率は低かったが、血流の低下や手術の炎症などが影響して、1 年後回復しなかったのではないかと考えられる。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	杉田 敦子
試験担当者	主査	有馬寛	中野	吉川
	指導教授	吉川	中野	中野

## (試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. AMHの生理的機能について。
2. AMH以外で、卵巣予備能の指標になるものがあるのか。  
あるならばAMHが優れている理由は何か。
3. Decrease群に比しIncrease群で摘出卵胞が多いのはなぜか。

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、産婦人科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

別紙3

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	杉田 敦子
学 力 審 査 担 当 者	主 査	有馬寛	柳 彰	丸山 彰一
	指導教授	志川 史隆		

(学力審査の結果の要旨)

名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。